令和３年度　若草保育園　自己評価

１．　園の保育目標

『　何事も、自分で考え選んで行動できる子ども　』の育成

基本的信頼感と自主性を育み、何事も自分で取捨選択できる子を育てます。子どもたち１人１人の興味・発見・関心を大切にし、のびのびと過ごせる場所で豊かな心を育て、笑顔があふれる保育をします

- ○　笑顔であそべる子
- ○　自分の思いをはっきり言える子
- ○　新しいことにチャレンジする子
- ○　毎日の生活を楽しむ子
- ○　思いやりのある子

２．　本年度、重点的に取り組んだ目標や計画

保育目標は「**保育士も子どもたちも毎日がわくわくする保育園にしよう**」

＊物を大切にしよう＊子どもも職員もみんなでエコ活動しよう

コロナ禍２年目を迎え、あらゆる面で縮小してきた昨年度から、感染リスクを減らしながら創意工夫し、保育を展開するよう職員一同 昨年度より一歩前に進んで取り組んできました。保育者がいきいきと子どもたちに一緒に遊びにかかわり、子どものやってみたいという気持ち、意欲が子どもたち主体で 自然と生まれてくるよう、環境を設定するよう考えていきました。行事については、一つ一つについて意見を述べる機会、意見を聞く機会を多くして、できる限り全員で話合いをして決定するようにしました。保育者が変われば子どもも変わる。保育者がわくわくしながら保育にかかわれれば、子どももわくわくしながら遊びの中で成長できると目標を掲げました。

３．　具体的目標・計画

保育の内容について

☆クラスの取り組み・目標

・０歳児　遊んで食べて眠って 心地よく過ごそう

（周囲の大人との愛着関係、十分に養護の行き届いた環境のもとくつろいだ雰囲気の中で様々な欲求を満たし、生命の保持及び安定を図る）

・１歳児　気持ちを受け止めてもらい　安心できる環境の中でうれしい楽しいをたくさん見つけよう

（大人との信頼関係を基盤に、一人一人の子どもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信を持つことができるようにする）

・２歳児　友だちや保育士とたくさん遊び　いろいろなことに感動しながらたくましい体と豊かな心をつくろう

（生活の中で、言葉への興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養う）

・３歳児　基本的な生活習慣を知り　いろいろなことに自ら挑戦しよう
いろいろな遊びの中から興味を持つこと夢中になることを見つけよう
自ら挑戦しようとする気持ちを育てよう

（いろいろな経験の中で感動できる感性を磨き、創造性の芽生えを培う）

・4 歳児　興味を持ったものをとことん追求してみよう
一緒に過ごす中で相手の気持ちに気づき友だちとの関わりを深めよう
（生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培う。相手に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にする心を育てるとともに、自主、自立及び協調、協働の態度を養い、道徳性の芽生えを培う）

・5 歳児　様々なことに夢中になってのびのび取り組む中で達成感を味わいワクワクを広げよう
友だちや周りの人を大切に思う気持ち　「ありがとう」の気持ちを持って協力し合いながら過ごそう
（人とのかかわりの中で、相手に対する愛情と信頼感、そして人を大切にする思いやりの心を育てるとともに、自主、協調、協働の態度を養い、達成する喜びと充実感により自己肯定感を育て、仲間と協働して達成する中で社会性を身につけ・豊かな心情や思考力の基礎を培う。様々な体験を通して豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う 1 人一人の子どもが周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。）

A → よくできた　B → できた　C → 一部改善が必要　D → 改善が必要

☆取り組み状況

＊	乳児保育において特定の保育者との応答的な関わりをもつことで信頼関係、愛着関係を育てることを重点的に行うようにする	A
＊	少人数担当制を行っている他の施設への乳児保育担当者の見学、勉強会への参加、研修会への参加を行い、本園の保育過程の見直しに繋げる	C
＊	幼児保育において少人数に分かれての活動をとりいれる	C
＊	職員が保育理念・保育方針の共通理解をする	B
＊	保育の振返りをしながら今後へ生かせるようにしていく	B
＊	保育環境の整備・充実	B
＊	給食職員と保育士等が連携して食育を推進する	A
＊	小学校や地域社会との連携を行う	A
＊	実習生の受入	B

☆達成及び取組むべき課題

- 保育において誰かが指示をし個々が動くというよりも、すべての職員が経験知を出し合って、皆で話し合い試行錯誤しながら保育することが保育の質の向上にもつながる。職員の僅かな保育感の違いが職員間の連携に影響があることが課題である。日々毎日クラス内で保育の振返りをしながら統一できるよう職員間で協働していくことがさらに必要。
- コロナ禍で異年齢児保育（縦割り保育）を行う機会が以前に比べ減少した、今後の課題である。
- 子どもが主体的に遊べるよう玩具を配置することについて話し合いを重ねた。
- 食育担当の保育士と栄養士が連携をとり、幼児組のランチルームを設定した。しかし人員配置やホールを使用することでの他の行事との兼ね合いや、二歳児の保育スペースとの兼ね合いに課題があることがわかり、本来のランチルームとしての「ねらい」を再考する必要がある。
- 旬の食材、季節感のある献立を取り入れるようにしている。
- 園の畑で栽培、取れた野菜を収穫しクラスで感染症対策を行いながらクッキングしたり、給食に

取り入れ食材と触れる経験をした。

- 近隣の小学校教諭と子ども園の教諭との合同研修会を開催した。各々の課題を知ることで、それぞれが協力できることなど、相互理解だけでなく、園の保育計画を考えるうえで方向性に役立つようになってきた。
- 地域の方に園の行事、避難訓練参加への声掛けを積極的に行っている。非常事態が起こった時の連携を具体化するため、地域の防災担当者と話し合いを持っていきたい。
- 実習生の受入は、将来への人材育成との認識で積極的に行っている。また、学生を迎えることで自園及び保育者自身が保育内容を客観的に振り返る良い機会にもなる。受け入れには双方の感染対策を徹底した。

① 健康及び安全について

☆取り組み状況・目標

健康

＊　園児の健康状態、発育及び発達状態の把握	A
＊　感染症対策、職員の感染症への知識の共有	A

安全

＊　園庭遊具、砂場の安全点検ならびに修繕	A
＊　防犯カメラ、AED、防災機器の点検整備	A
＊　防災用品の購入	A
＊　避難訓練の充実	B

☆達成及び取組むべき課題

- ICT 化を進めるよう、新しい保育アプリの導入を具体化したことで、登降園チェックはもちろんのこと、感染症に係る情報の伝達や家庭内の健康観察等にも業務省力に期待できる。
- 登園時の視診による健康観察、保育中にも視診を行い具合の悪そうな場合は検温したり、注意深く様子を観察するように心がけている。
- 毎月身長・体重を測定し、乳幼児保健票のグラフ記載は保護者が行い、園医への質問等子どもの発育について連携して見守っている。
- 感染症の発生時の家庭への周知、予防対策への協力を速やかに行った。
- 新型コロナウイルス感染症予防のため、保育所における感染症ガイドラインに沿って予防措置を速やかに行った。引きつづき予防のための消毒や、注意喚起、職員の意識の継続、情報収集をして対策をしていくことが課題である。
- 看護師が市内合同研修会に参加し、各園の乳幼児の保健情報を交換している。この情報を園内で共有活用して保護者へ発信。園内だけでなく地域へさらに発信していきたい。
- アレルギー児への給食の対応について、保護者との詳細な連携ができている。
- 毎日園内の遊具及び設備等の点検を職員が行い、不備がある場合は都度改善をしている。
- 専門業者に依頼し、園内の遊具点検及び砂場の細菌検査を年一回行う。
- 警察に依頼し、不審者への対応訓練を行った。自動ドア及び送迎通用門の施錠の徹底を行う。
- 年間の避難訓練計画に基づき、全園児と職員が訓練に参加「自分の身は自分で守る」という意識が徐々に身についている。

② 子育て支援について

☆取り組み状況・目標

＊　保護者の気持ちを受け止め、保育園と保護者の相互理解を図る	C
＊　地域や関係機関と連携して子育て支援をする	A

☆達成及び取組むべき課題

- ICT 化を進める上で、全職員に負担が起きないように進めていくこと、保護者がスムースにアプリなど活用できるように段階的に丁寧に進めるようにしていくことがこれからの課題である。
- 年間行事については、保護者が参加できる機会を工夫してできるだけ増やしていくことがまだまだ課題である。運動会は無観客で行ったが、生活発表会(若草こどもまつり)は保護者の方に参加していただく事が出来た。保護者の感想やご意見により、また子どもたちの様子から、保護者に参加していただき、子どもたちの様子を知っていただく事が重要であることが改めて確認できた。園と保護者が同じ方向で子育てをしていくには、子どもたちの様子を如何に伝えるかが大きな課題である。日々のドキュメンテーション、保育アプリの活用等を更に充実していくことに力を入れていきたい。
- コロナ禍により保護者の状況、就労への理解と配慮をより一層していかなければならない。
- 感染症予防等のストレスを抱える親子への配慮、職員のストレスについても負担軽減をすることも必要である。
- できるだけ多くの職員がキャリアアップ研修に参加できるようにしたため、保育の質向上に繋がっている
- 一時預かり事業、おしゃべりサロンはコロナ感染症の影響で控えなければならない状況があったが、人数制限や予約制で行うことが出来た。

③　組織運営について

☆取り組み状況・目標

＊　職員への情報の取り扱い方針の周知	A
＊　職員への就業規則の周知	A
＊　職員の資質向上	B

☆達成及び取組むべき課題

- 個人情報の取り扱い、守秘義務については徹底してきている。
- できるだけ保育の課題に即した研修に参加できた。
- 研修で得た知識や技能を全体で共有する機会がまだまだ足りないことが課題である。

《　全体を通しての自己評価　》

- 新しいホームページを開設するのを機会として、創立以来の保育理念・保育目標・若草っ子らしさを理事長や理事にも応援をいただき、職員間で話し合い、再編成し現在の若草に合わせてつくりあげることができた。
- 子どもの発達の連続性を考慮した保育(養護と教育)を常に意識し、小学校に向けて学びの基となる力を遊びを通して身につけさせていく。幼保小合同研修を若草主催で行った。小学校教諭（校長、主幹教諭、１学年担当教諭参加）と近隣子ども園（園長、主幹、保育教諭参加）との合同研修により、それぞれの立場の理解が深まり、保育の方向性も確認する良い機会となった。
- 保育内容については、異年齢児との保育活動など一斉活動は感染症対策から十分とは言えなかったが、乳児部は夏を楽しむ感触遊びや秋には絵本の世界を楽しむ会、運動会には応援参加をしたり、各クラスが活発に話し合い保育を展開した。幼児は軽く移動できる机の購入により、ホールにランチルームを設定した。午前と食後のクラス内での遊びを連続してできるようにした。楽しい

雰囲気で食事をすることができた。年長クラスは日常の運動遊びの成果を運動会で発揮することができ、子どもたちの自信につながる場面が多くみられた。

- 子どもの主体的な遊びができる環境を工夫することにさらに力を入れたい。
- 保健管理については２月後半から３月初旬にかけて園児に嘔吐・下痢症状が複数出たため、保健所に報告した。ノロウイルスによる感染症も見られたため、立ち入り調査が入った。消毒の徹底で感染拡大は大きくならずに治まった。給食による感染ではなかった。感染症マニュアルにのっとって対応できた。今後も感染症対策を行っていきたい。嘔吐を伴う感染症については、特に保護者の協力によるところが大きく。園としてもありがたく、感謝したい。
- 外部からの侵入に対しては警察にも協力を得ながら不審者対策・対応の充実を図った。保護者にも協力していただき玄関施錠については徹底している。
- 職員が特別支援について学ぶ機会（専門機関からの助言）をもち保育に生かすことができてきた。
- 専門機関へどのようにつなげていくか（橋渡し）が課題である。
- 一時保育事業では「子育て」の不安をかかえる家庭への援助の必要性が高まっている。できる範囲で職員の負担にならないようにしながら、保護者の「子育て」のストレスを軽くする受入をしている。
- 職員の処遇面は改善されてきた。職員間のチームワークを強化することをねらいとして今年度の保育目標を主任会議で話し合い決定した。ライフ・ワーク・バランスを意識し生活と仕事を両立しながら、いきいきと働き続ける職場の実現に向けていくことが事業所としての課題である。